

下関リハビリテーション病院 季刊誌

# オレンジ

地域に寄り添い、地域と共に  
Shimonoseki Rehabilitation Hospital



基本理念 手には技術、頭には知識、患者様には愛を

## CONTENTS

2P 院長 新年あいさつ

4P 吊り下げ式トレッドミル導入

3P 看護部 部長 新年あいさつ

面会制限解除のお知らせ

医療技術部 部長 新年あいさつ

医療連携室 室長 新年あいさつ



一般社団法人 巨樹の会

下関リハビリテーション病院

# 新年のご挨拶



院長 林 研二

新年、明けましておめでとうございます。

昨年も、一昨年同様コロナ禍の中、「地域に寄り添い、地域と共に」という理念のもとに、多くの方々に支えられながら職務に励んで参りました。こうして、2022年の新年を迎えることができましたのも、ひとえに皆様方の暖かいご支援の賜であり、また、職員一同の「より良いリハビリで地域貢献の一役を担う」のだという、熱意と努力の結果であると思います。心より感謝申し上げます。

昨年12月初旬、新型コロナウイルス感染症の新規発生も著明に減少してきたため、かねてよりの念願であった患者様とご家族様との面会制限を解除しました。入院期間が長期にわたる回

復期病棟においては、患者様とご家族様との「触れ合い」や「絆」というものが、「リハビリ」という医療を実践する上において、欠かすことのできないものであるということを改めて感じさせられました。

新型コロナウイルス感染症はまだ終息を迎えたわけではなく、新しい変異株も拡大しています。しかし、新型コロナウイルス感染症は我々に「危機を乗り越えていくにはく人の心と絆」が最も大切である」ということを教えてくれました。本年も、我々一同は、社会や周囲の変化に翻弄されない確固たる信念を持って、地域医療に貢献・邁進していく所存であります。何卒宜しくお願い申し上げます。



新年、明けましておめでとうございます。



看護部 部長 半田 弘文

**新**年明けましておめでとうございます。

昨年もおとしから引き続き、新型コロナウイルスの流行により

いろいろと制限のある年でした。特に第5波では感染者の急増大によって、当院周辺の病院でもクラスターが発生しコロナウイルスの脅威にさらされる時期でした。

幸いなことに当院ではいまだコロナ感染者が発生することなく経過しており、これも職員の皆さんが感染に対する意識をもって予防対策を徹底して下さったおかげだと感謝しております。

今年も感染対策を継続しつつ状況をみながら制限緩和を図り、

地域との連携や活動を活発化していきたいと考えています。また、回復期リハビリテーション病院として質の高いリハビリ看護の提供を目指し、地域の皆様より必要とされる病院であることを今後も継続して努力していきたいと思っております。

今までの日常を取り戻すにはもう少しかかりそうですが、皆さんとともに一丸となってこの危機を乗り越えられるよう頑張りたいと思っております。

本年もよろしくお願い致します。



医療技術部 部長 波多野 崇

**皆**様、新年明けましておめでとうございます。

一昨年より新型コロナウイルスによる影響で皆様の生活様式も

一変されたかと思っております。自宅からの外出頻度が激減された方もいらっしゃるのではないのでしょうか？日常生活の中において運動量(活動量)が減っていく中、リハビリテーションの専門集団として私たちに何が出来るかをひたすら模索し、行動した一年だったと感じております。

コロナ以前は患者様のご家族に対し、対面で行っていた運動或いは介助指導をオンライン形式でご提案させていただきました。退院後の生活を安心して送っていただける事を目的に、外出訓練など実際の生活場面を想定し

た動作確認、介助指導も行わせていただきました。こちらは感染状況と対策に十分留意した上で、医師の指示の下、実施させていただいております。その他、当院のリハビリテーションに関する治療前後の動画をホームページ上に掲載させていただきました。治療実績に加え、実際の治療動画をご覧いただく事で、これまで以上に当院の取り組みをご理解いただけたら幸いです。そして、地域の皆様がこれからもお健やかに住み慣れた地域で安心して生活していただけるような病院を目指して参ります。



医療連携室 室長 中板 留美

**あ**けましておめでとうございます。

旧年中は、長引くコロナ禍の中、患者様の安全を最優先に考えた一年となりました。その結果、面

会制限や地域活動参加の自粛等、患者様・ご家族様をはじめ地域の方々にもご不便をおかけ致しましたが、皆様のご理解と協力のお陰により、コロナ感染の発生なく新年を迎えることができましたこと厚く御礼申し上げます。

病院と地域のみなさまとをつなぐ役割を担う、私たち医療連携室においても、「顔がみえる連携」が行いにくい状況の中、連携の在り方について今一度見つめなおした一年でもありました。従来の対面や電話でのやりとり

留まらずZoomやスピーカーフォンの活用、また情報提供書の充実など、試行錯誤を繰り返し、患者様・ご家族様に安心して入院して頂き、また退院後も安心して地域で生活して頂くにはどうしたら良いかを皆で考え行動してまいりました。本年も、皆で力を合わせ地域の皆様に信頼される医療連携室を目指し努力する所存です。

本年も変わらずご指導ご鞭撻のほど、心よりよろしくお願い申し上げます。

## つり下げ式トレッドミルを導入しました!

☆今後、ホームページにて訓練の様子を動画で配信する予定です☆



当院では2021年12月より吊り下げ式トレッドミルを導入しました。同機器は患者様に専用のハーネスを装着して頂き、免荷量を調整しながら歩行訓練を行って頂くものとなっています。適応症例としては、自力歩行が困難な方、長期臥床などにより体力低下した方、杖などでは十分に身体が支えられない方、骨折による免荷指示のある方などを対象としています。また適応疾患として脊髄損傷、脳卒中、廃用症候群など様々な患者様に対応させて頂きます。吊り下げている為、安全にご利用頂け、自力歩行が困難な時期においても積極的に歩行訓練が可能です。その他、十分な運動量の確保も可能であり、歩行能力改善に繋がっていきます。



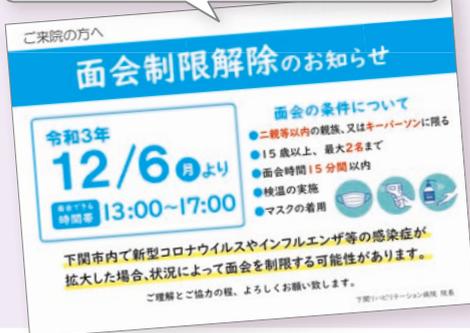
今後、当院におけるデータの集積も行い、より効果的なりハビリテーションの提供を目指していきます。

最近では不全脊髄損傷患者様にも効果的との文献も散見されます。

理学療法室  
副主任 藤井 牧人

理学療法士  
和多田 美紅

## 面会制限を解除しました



下関リハビリテーション病院では、12月6日より面会の制限を解除致しました。感染対策を充分した上で、いくつかの条件のもと、病棟での面会を再開致しました。  
尚、下関市内で新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症が拡大した場合、状況によっては再び面会を制限させて頂いていただく可能性があります。  
皆様には日頃よりご理解とご協力をいただきまして、誠に感謝しております。今後ともよろしくお願致します。

表紙の写真 📷 到津の森公園(北九州市小倉)で、今年の干支"トラ"を発見! とても迫力がありました!

一般社団法人 巨樹の会  
**下関リハビリテーション病院**

〒750-0064 山口県下関市今浦町9番6号  
TEL:083-232-5811 FAX:083-232-0219  
URL:https://www.shimoreha.jp  
Mail:info@shimoreha.jp

### アクセス方法

- JR 下関駅より徒歩5分
- サンデン交通竹崎バス停より徒歩1分

